

おだわら  
情報

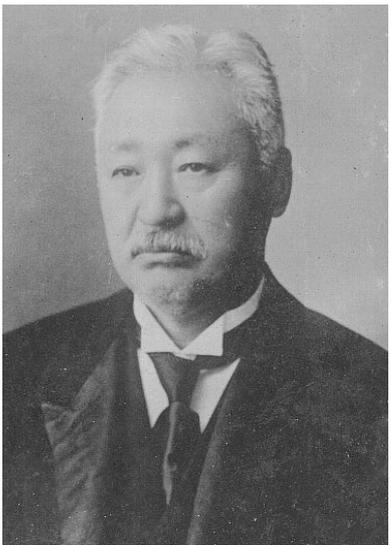
生誕160年、益田鈍翁ますだどんのうの記憶  
「DO YOU KNOW 鈍翁?」①

郷土文化館では今秋、益田鈍翁の生誕160年を記念して、松永記念館で特別展を開きます。

ここでは、鈍翁の人物像と、鈍翁から始まった小田原の近代茶道の歩みをシリーズで紹介します。

郷土文化館 ☎ 231377

明治時代、  
板橋に『掃雲台』を構え、  
小田原に  
新しい茶人文化を  
開花させた益田鈍翁を  
ご存知ですか？



『小田原三茶人』の一人として名をはせた益田鈍翁。明治・大正時代を代表する実業家として数多くの偉業を残しました。

1848（嘉永元）年、下級幕臣の子として生まれた鈍翁は、わずか12歳でアメリカ公使館の通訳に抜擢され、17歳の若さで第2次遣欧使節に同行しました。若いころから見聞を広めたことが、後の実業界での大活躍につながりました。

1876（明治9）年、三井物産初代社長に就任、外国商人の独占状態となっていた海外貿易に切り込み

ました。三池炭鉱の購入や戦争特需に乗じて、ばくだいな利益を稼ぎ、『総合商社』と呼ばれる日本独特のビジネスモデルを完成、まさに今日の『貿易立国・ニッポン』の先駆けになりました。

「金が欲しくてやっているのではない、仕事がしたいのだ」その眼は常に、企業の利益よりも国家や人の利益を見つめていました。

私費を投じて中外物価新報（現在の日本経済新聞）を創刊したのも、広く経済情報を発信しようとの発想によるものでした。